

平成 30 年 6 月 30 日(土)14 時より、秋田赤十字病院多目的ホールにおいて生活習慣病検診従事者講習会が開催されました。(秋田県補助事業 標記会)

例年、天候上順で今年も雨模様でしたが、参加者も 40 名ほど集まり、講演 2 題と特別企画を行いました。

はじめに、こころとからだの元気プラザの重松綾先生による「上部消化管 X 線検査における装置の設定と画像について《のご講演がありました。モダリティとしてデジタルが主流になり II/DR から FPD となる昨今、様々なパラメータが存在しており、設定により濃度・コントラスト・鮮鋭性・粒状性が大きく変化します。設定項目を大まかに分け、ウィンドウ階調処理、ガンマカーブ、周波数フィルタ処理等の調整の仕方によりどのように画像が変化するか自施設の調整画像、臨床画像も含め“良い画像(画質)”について解りやすくお話しして頂きました。視覚的な鮮鋭性・粒状性は相関が見られ、ROI の画素値の標準偏差とも同様、相関が見られるので、極端に強い・弱いフィルタを選択せず、施設に合った強度のフィルタを選択することが重要との事でした。

続いて、岩手県予防医学協会の村田宗二先生による「『すとまっぷ』完全攻略～描出区域の理解～《のご講演がありました。胃がん検診の目的は「救命可能な胃がんの発見《です。造影効果と区域描出能が高く、読影者が見やすい画像の提供が必要となります。「すとまっぷ《を通し、基準撮影の描出の理解と牛角・横・変形胃などの描出の違いを立体像を絡めお話頂きました。撮影時にはどこを撮影しているか常に意識し、胃の全領域を撮影する心がけが大事であり、描出部位がわからないと見逃し、撮り逃しが発生する可能性が高く、胃がん検診としての目的を果たせないことから「すとまっぷ攻略《は欠かせない課題と成りました。また、任意撮影法(施設独自の撮影法)を行っている施設も今一度描出区域の確認をお勧めします。撮影を始めたばかりの方は、多くの撮影画像ですとまっぷを作成し、自分の撮影を評価しましょう。

休憩をはさんでの、特別企画「画像評価とレクチャー ～となりの芝生は青く見える～《では、各施設の画像が数多く集まりました。病症例のほか、技術 B 資格認定画像提出に向けて、どうしても上手く撮れない症例、追加撮影のテクニックなど講演頂いた先生や専門技師から助言を頂きました。特に今回は撮影技術だけでなく、講演にもありました画質評価や、NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構の評価委員・指導員の立場から評価を頂いたことは、B 資格認定や専門技師を目指している会員には良い助言だったのではと思います。

評価試験でも「もったいない画像が結構あります。《との事でしたので全国的に読影医が上足しているなか、これを機に認定技師が増え県内のがん検診従事者として放射線技師が貢献していければと思われま。

記 羽澤



